



じょう が く 城 岳 っ 子

第 17 号

令和8年2月5日(木)

発行者：校長 永田 聖子

新春 朗読会を行いました！！

2月3日の2・3校時に、東京から「熊澤 南水先生」をお招きして、朗読会を行いました。2校時の低学年には、「ソメコのオニ」「いのちをいただく」、3校時の高学年には「いのちをいただく」「蜘蛛の糸」の2作品を朗読していただきました。子どもたちは、声だけで聞く物語の世界に引き込まれ、体育館がシーンと静まりかえり、「いのちをいただく」では涙を流す児童もいました。

学年を代表して、低学年では3年の「金城 旭飛さん」、高学年では6年の「比嘉 宇海さん」が感想とお礼の言葉を発表してくれました。

熊澤 南水先生から、「想像力」「気づく」そして「楽しく生きる」など、様々なヒントをいただきました。子どもたちが受け取ったメッセージを紹介します。



新春朗読会の感想(抜粋)part1



いろんなことを考えて、ちゃんと想像できました。朗読会楽しかったです。また来てください。
一年 酒本 真綾

ソメコがオニをこわがらなくて、逆にオニがこわがっていたのが面白かったです。
一年 山入端 妃蘭里

オニがソメコをさらってお金をもらおうとしたのに、逆にお金をあげたのが面白かったです。
一年 長濱 健志

人に切られてみんなに食べられるから、作っている人や動物たちに食べる時にはありがとうと言いたいです。
二年 呉屋 夢乃

ソメコは小さい女の子みたいでオニはこわい声でこんな声が出て南水さんはすごいなと思いました。
二年 樋木 真祐

オニがソメコのお父さんに金の俵をちょうだいと言ってたけど、逆にお父さんがオニからもらったので面白かったです。二年 小野原 楓

命をいただくって自分が思っている何倍も大切ってことを知って、命に感謝して食事を取りたいと思いました。三年 古波蔵 希優

ソメコの性格のおかげで恐怖でもチャレンジする気持ちを持ってました。いいチョイスです。また朗読しに来てください。三年 平良 陽有

南水さんは面白い時は面白く悲しい時は悲しくしてすごいと思いました。いただきまますって大切だとわかりました。三年 知花 颯真

蜘蛛の糸では、「自分さえよければ」ということは決して良くないことだとおっしゃっていました。考えて言葉を出したいです。五年 野原 優那

最初は耳で聞いていましたが、途中から先生を見ていると危ないシーンや悲しいシーンでは、まゆをひそめていたり、うれしいときは目と口を閉じ幸福感を出していました。1年生に向けて朗読をしてみようと思いました。
5年 前田 椰来

一つ一つの言葉に感情がこもっていて、登場人物の気持ちを感じることができました。本がなくても物語の想像ができました。これから本を読むときは、少し声に出して、感情を込めて読んでみようと思います。
5年 名城 千華